

山岳部 部員の地元の音江山・沖里河山を登りました (9月19日(土))

北海道の主要な名山を登るのも楽しいですが、自分の育った土地の身近な山を登ることを通して様々なことを思い出したり考えたりする機会をもつことも、大変意義のあることです。今回は部員の育った地元深川の山を登って来ました。

登山口をスタートしてすぐに中々の急坂を一気に直登し、展望の開ける尾根に取り付きます。登山道は落ち着いたいい雰囲気。最初に辿り着いた剣山は山頂への道はないが、藪漕ぎでピークを踏む。音江山は山頂標識が朽ちて壊れていたが、三角点でピークを確認。逆に無名山は名前が無いのに立派な山頂標識がありました。気づけば無名山が音江連山の最高峰であった。沖里河山へ向かう途中、雲ゆきがどんどん怪しくなり今回も一時レインウェアのお世話になりました。大展望の広がる観光スポット沖里河山山頂に着くころには雨雲もほぼ抜け、景観を十分に楽しむことができました。無料の望遠鏡も設置されており、部員は自分の育った街を眺め、小学生の頃別ルートから沖里河山を登ったことを思い出しながら懐かしんでいました。林道を下山し、まあぶ温泉で汗を洗い流し、心地よい疲労感を感じながら岩見沢に帰って来ました。



音江連山登山口



剣山は藪漕ぎでピークを踏む



朽ちて山頂標識がなかった音江山



連山最高峰無名山 天気が怪しくなってきた



今回も一時レインウェアのお世話に



展望の開けた観光スポット 沖里河山山頂



深川市その他、周辺地域を一望できる大パノラマ